

海老名市立海老名小学校 学校運営協議会 議事録
(令和5年度 第3回)

- 1 日時 令和6年2月28日(水) 10:00
- 2 場所 海老名小学校 校長室
- 3 出席委員 小田島恵子委員、赤塚 誠委員、生駒 晶委員、小松 聡委員、
奥泉 憲校長、楠 祐子教頭、風間大輔総括教諭

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

奥泉校長 学級閉鎖などがあるが、おおむね予定通り学校教育活動を実施できている。昨日、懇談会があり、多くの保護者に参加していただいた。その中で、2月中旬に行った学習発表会の感想が多く聞かれた。発表会は素晴らしいが、本当にお伝えしたいのは、本番までの過程であり、教師と児童の関わりである。今後も、学校の様子をできる限り発信していきたい。

(2) 令和5年度学校行事等の実施状況について(校長より報告)

奥泉校長 昨年度までは、感染症対策の影響がまだ大きかったが、おおむね予定通り学校教育活動を実施できている。児童も先生方も比較的落ち着いて学校生活を送ることができている。

(3) 協議事項

① 令和6年度の学校運営(グランドデザイン)について(校長より)

奥泉校長 今年度の学校運営を反省し、先生方からいただいたご意見を踏まえ、8つの重点項目について主な方針を示したい。

- ・学習内容の基礎基本の定着
- ・心のこもった挨拶 …低学年の児童が高学年の挨拶を見本にしている。
- ・新しい運動会の形 …分散型から一斉型へ。
- ・インクルーシブ教育の推進 …初めから完璧な形に整えることはできない。
- ・ICT機器の管理活用推進
- ・PTA活動の在り方について
- ・鼓笛活動の推進 …活動の意義をしっかりと踏まえたうえで取り組んでいきたい。

- ・登下校時の安全確保 …通学路の工事が行われた際は、ボランティアで立哨してくださった保護者が多数いらっしまった。大変ありがたい。
- ・チーム海老名小のテーマは、「自主貢献」。教職員には、お互いに助け合う気持ちを大切にしてほしいと考えている。各項目の詳細について、この後お示しする。

② 令和6年度学校運営上の検討事項について

○基礎基本の定着について（風間より）

- モジュール学習導入にあたり、保護者向けに学校だより臨時号を用いて説明した。
- また、児童向けには説明動画を作成し、視聴することでモジュール学習導入の意義やねらい、それに伴う日課表の変更等について説明している。（委員の皆様は動画をご覧ください。）

- 奥泉校長 モジュール学習導入にあたっては、趣旨をしっかりと共有したうえで始めないと、内容がおろそかになってしまう恐れがあるため、このように丁寧に説明しているところ。
- 赤塚委員 メリット、デメリットがあると思う。これまで45分間で生み出していた学習効果を3回の15分に分けることで、学習効果が薄れてしまうことが心配だ。他校の様子はどうか？
- 奥泉校長 すでに取り組んでいる学校がある。継続していくことで効果は表れると感じる。また、児童と教師がお互いに「基礎基本の定着」というねらいを共有すれば、学習効果は表れると思う。
- 赤塚委員 モジュール学習導入に伴い、金曜日が全学年5校時日課となる。先生方に余裕が生まれることは、非常に良い。
- 奥泉校長 児童にとって、日課表が変わることは大きな変化。モジュール導入は時間を生み出すために行うものではないが、教職員にとってもより働きやすい形を探っていきたい。
- 小田島委員 15分の短時間学習の効果はあると思う。しかし、これだけ多くの時間をモジュール学習に費やすとなると、学年や学級、教師の指導力によって効果に差が出ると予想される。
- 赤塚委員 これだけ多くの時間を国語や算数の基礎基本に費やすとなると、児童は飽きてしまわないか？
- 楠 教 頭 学習支援ソフトにあるドリルを活用することを選択肢の一つとして考えている。
- 奥泉校長 モジュール学習の時間は、国語や算数の基礎基本の学習内容に限定しているが、活動を制限しすぎてもいけないと思っている。学

年で活動内容をそろえるなど、ある程度の足並みはそろえる必要があると考えている。

○新しい運動会の実施について（校長より）

- 今年度の運動会は2部制で行い、1・3・5年、2・4・6年と分け、保護者観覧も入れ替え制とした。
- 令和6年度は、1部制で行い、リレーや応援合戦を行う予定。午前中開催。
- 運動会本番で、異学年児童同士、演技や競技を見合うことで、行事の教育的効果を高めたい。

赤塚委員：全学年が徒競走を行うわけではない？

奥泉校長：演技は全学年行う。今年度、徒競走を行った学年は次年度団体競技を行い、今年度、団体競技を行った学年は次年度団徒競走を行う予定。

○今後のPTA活動の在り方について（風間より）

- 海老名中学校区では、令和7年度にPTA任意加入とする。
- 現在、本校PTAでは、「PTAの在り方検討委員会」を立ち上げ、令和7年度に向けて協議を行っている。
- その中で、令和6年度は常置委員会の活動内容を一部削減、縮小していく方向性が決定している。
- 令和7年度に向けて、PTA会員の保護者の皆様のお考えを把握したいと考え、アンケートを実施し、その速報値をお示した。

小松委員 低学年の頃は、登校班があることで安心感があつた。地区長さんや立哨をしてくださっている方の負担が大きくなってしまっていることが心配である。

奥泉校長 市内でも地区によって登校班の在り方は異なる。

生駒委員 本校の学区は駅前で交通量が多い。

小田島委員 登校班があることで、家庭同士や児童同士でトラブルになってしまっている地域は少なくない。

赤塚委員 アンケート結果を見ると、加入・非加入で生じる問題やPTA活動の一部である登校班の問題がある。

楠 教 頭 昔とは違い、共働きの家庭が増え、協力できることに限りが出てきてしまっている。他市の取り組みも参考にしながら、今後の本校PTAの形を検討していきたい。

奥泉校長 PTAのアンケート結果は、後日保護者の皆様にもお伝えする予

定。今後の方向性についても、保護者の皆様に丁寧に周知し、共有していくことが大切だと考えている。

○インクルーシブ教育の推進について（教頭より）

○「どの子にとっても安心できる居場所づくり」について、本校の現状と課題について(にこにこルーム、別室登校支援教室、通級教室(そだちの教室)、国際級、ひばり級との交流)

- 小田島委員 別室登校支援教室の支援員は毎週火・金の2日間とのことだが、それ以外の曜日は？
- 奥泉校長 保護者の方が付き添って利用したり、オンラインで教室とつないで活動したりしている。
- 小田島委員 学校にも来ることができず、家からも出られないお子さんもいるのでは？
- 奥泉校長 学校に来られない要因が不明なこともある。学校としての関りは限られているが、放課後学校に来てもらったり、オンラインで学習したりするなどしている。形は様々だが、つながりが大切だと感じている。
- 小田島委員 そだちの教室が新設予定とのことだが、他校からの通級の受け入れもあるか？
- 奥泉校長 ある。
- 赤塚委員 どのようなお子さんが入級するのか？
- 奥泉校長 友達のコミュニケーションや集団での生活に課題や悩みを抱えている児童が対象になるかと思う。
- 楠 教 頭 現在、本校から他校へ通級しているお子さんは、本校の育ちの教室で活動することになる。
- 奥泉校長 支援級の在籍児童は増加傾向。支援級で丁寧に個別指導をしていけば、将来的に通常級に在籍することも可能であると考えている。
- 小田島委員 一昔前と違って、支援級への入級希望が増えているように感じる。お子さんの様子を細かく見ていただけることが大きいのでは。
- 生駒委員 マンパワーが足りない。支援級の交流先となる通常級においても、複数担任制が望ましい。

○ICT機器の管理を管理活用について（教頭より）

- 児童は学校生活の様々な場面で、1人1台端末を活用している。
- 市教委が持ち帰りを推奨していることから、今後タブレットを持ち帰ることが多くなると思うが、自宅でのタブレットの使い方に不安が残る。
- 児童への情報モラルについて指導する必要がある。
- また、タブレットの管理方法についても一定のルールの中で取り組ませる必要がある。
- 次年度にかけて、学習支援ソフトの導入を試行している。
- AI機能を搭載した個に応じた学習ができるドリル学習や協働学習ができる機能が備わっている。（実際に委員の皆様にご体験いただいた。）

- 奥泉校長 市教委は持ち帰りを推奨するが、ルールや仕組みを作った上で取り組みたい。また、端末利用については、どうしても教師の目が届かない。
- 楠 教 頭 タブレットを持ち帰った際に壊してしまったり、なくしてしまったりした際の対応の仕方も定まっていない。家庭で端末を故意に破損してしまった場合は、その分の費用をお支払いいただくこともある。中には「うちには持ち帰らせないでほしい」という声もある。
- 小松委員 娘が持ち帰ってきている。先日は、タブレット上で音楽の見本動画を見ながら練習に取り組んでいる姿を見た。
- 奥泉校長 体育の時間においても、自分や友達のフォームを撮影して見返すなど、技能向上に役立てる使い方もある。情報モラルの観点からだと、中学入学後にトラブルになることが多くなってきた様子。
- 赤塚委員 先ほど、学習支援ソフトのドリルや協働学習のための機能を体験したが、これらに対応しなければならない教職員の負担が心配である。研修などはあるのか？
- 楠 教 頭 2学期末に研修を行った。学習支援ソフトを展開している会社の方をお招きし、使い方等についてご教示いただいた。
- 小田島委員 タブレットも大事だが、低学年の段階では、鉛筆をもって、紙に書いて学習する機会はしっかりと確保してほしい。
- 赤塚委員 同意見である。鉛筆と紙を使った学習も大切にしてほしい。
- 奥泉校長 1人1台端末の活用については後戻りできない。今後、どのように活用していくか知恵を働かせて、研究していきたい。

(4) 学校長挨拶

- 奥泉校長 今年度、最終回となる。委員の皆様には感謝申し上げます。次年度も、引き続きお力添えをいただきと思います。よろしく申し上げます。